

福井

「福井全研ニュース第 8 号」

「ぽ〜れぽ〜れ 6 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 6 月 25 日
 編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部
 事務局 〒910-0017
 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内
 TEL : 0776-28-2929 FAX : 0776-63-6756
 E-mail: monowasure@fmatsubara.com

ヒストリー福井 第 6 章「福井一の神童と西郷どん」

第 6 章はいままでの「戦国時代」から「江戸時代」へと時間を進めます。現在 NHK 大河ドラマ「西郷どん」にも登場した「橋本左内」。若くして「福井藩一の神童」と呼ばれ、15 歳で「啓発録」を執筆。この「啓発録」は現代語訳で出版され、学生やビジネスマンから人気のある書籍です。

橋本左内(本稿はこの名で統一)は天保 5 年(1834 年)、福井藩奥外科医・橋本長綱の長男として誕生しました。幼いころから聡明だったことで知られた左内は、15 才にして『啓発録』を執筆しました。

また藩主・松平春嶽(慶永)に取り立てられ、書院番、侍読(秘書)、御手元御用掛と順調に出世しました。

藩校・明道館の蘭学係にも就任し、洋書習学所を開設しました。積極的に西洋の学問や技術を取り入れ、藩政改革や開発に取り組んだのです。

時代は幕末。外国からの圧力が強くなるに従い、日本全土で様々な動きが起きておりました。薩摩藩も西郷も大きく関わったのが、将軍継嗣問題です。左内は、一橋派(一橋慶喜)である主君・松平春嶽の右腕として活躍します。英明な慶喜を将軍として、その下で幕藩体制を維持したまま、西洋の技術を導入して列強に対抗する——それが橋本の構想でありました。

「安政の大獄」とは、一般に思われがちな「倒幕派への弾圧」ではなく、井伊直弼など南紀派による一橋派の粛清であり、どちらの派にも様々な政治思想の人が含まれていました。

左内の主君・松平春嶽は蟄居謹慎処分。そして橋本左内は、伝馬町牢屋敷斬首となりました。



橋本左内肖像画(島田墨仙作)



「福井県護国神社」

国の為に尊い命を捧げられた方々をまつる神社です。その中のお一人には幕末の秀才と慕われる、橋本左内先生の御霊もおまつりされています。左内先生の座右の銘から頂いた「大丈夫守」は、全国で当社にしかなく、揺ぎ無い信念を頂きたい!という方に人気です



「フェニックス・プラザ」から北方へ徒歩 15 分です。

「いざ！！全研へ！！」

「福井全体が「認知症」に対して やさしい地域作りの為に・・・」



現在、企業や関係各所へ後援の依頼、広告協賛金の依頼をしています。また 6 月 3 日の「認知症啓発講演会」の案内も含めて、広報に回った時期から、「福井県全体として、「認知症」に取り組んでいる、認知症に対してやさしい地域作り」の動きが出てきたように思います。

一つとして、福井テレビとテアトルサンク（福井市内の映画館）が共同で認知症啓発映画「僕がジョンと呼ばれるまで」の公開があり、映画館のホールにて「福井全研」の PR チラシや紹介 DVD を流して頂くこととなりました。

「認知症の人の居場所を確保する 受け皿が必要」と訴える鈴木代表 理事＝5月、京都市

「認知症の啓発」... 「認知症の人の居場所を確保する 受け皿が必要」と訴える鈴木代表 理事＝5月、京都市

「認知症の啓発」... 「認知症の人の居場所を確保する 受け皿が必要」と訴える鈴木代表 理事＝5月、京都市

また福井新聞は 6 月特集で「認知症」に関する掲載がスタートし、若年性認知症の方の話、愛知県大府市の列車事故の話、最後には鈴木代表のインタビュー記事が掲載されていました。(写真左 6 月 22 日付け福井新聞記事)

「全研開催、成功はもちろん、全研終了から福井県にとって認知症に対する市民運動を働きかける動機付けを行っていきたい。」松原代表が全研にかける思いが少しずつ形になってきました。

福井の味 第 4 弾「水ようかん」

第 4 弾は福井県庶民の銘菓「水ようかん」です。

「水ようかん＝夏の食べ物」と思われがちですが、福井の水ようかんは冬に食べる習慣があります。

一般的な水ようかんとは違い、福井の水ようかんの材料は「黒砂糖と小豆、寒天」とシンプルです。その為、日持ちはしない為、冬に食べる習慣がついたようです。また福井の水ようかんは一枚板で箱に入っており、木べらで切って食べるのが一般的です。

水ようかんの発生の由来は諸説あり、
・(京都に)奉公に来ている丁稚が(福井へ)里帰りする際に持たせ、その結果広まった。

・奉公先の練りようかんを改良し、丁稚用のようかんとして作ったのがはじまり。
などが言われているようです。
その為福井では水ようかんの事を丁稚羊羹（でっちようかん）とも呼ばれています。



雪降る寒い日にこたつに入りながら冷たい水ようかんを食べる。福井の風景です。
販売時期は 11 月 1 日～翌年 3 月 31 日までとなっています。全研開催日には店頭には並んでいないかもしれません。

介護独楽吟 大大・大募集

「介護独楽吟」って何? No6

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙覧は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し、「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を詠み歌集「独楽吟」として残しました。

認知症の人と家族に対する理解と支援を多くの皆さんに求めるため、私どもの「介護独楽吟」を全研会場だけでなく福井市内の公共機関等に掲示させてもらいたいと考えています。

6 月 3 日の本部総会では京都支部、熊本支部、岡山支部の皆様の「介護独楽吟」ポスターを展示させて頂きました。

ご協力ありがとうございます。

当初 6 月 30 日までの締切とさせて頂きましたが、7 月 31 日まで延長させて頂きます。

多くの皆様から「介護独楽吟」を福井県支部にお寄せいただきしたいと思います。

※ 独楽吟はあまり形式がなく、みなさまに親しみやすいものと思います。ぜひ日記感覚で筆を執っていただけたらと思います。

送付先 認知症の人と家族の会福井県支部事務局

〒910-0017 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内

FAX : 0776-63-6756 E-mail monowasure@fmatsubara.com

介護独楽吟

京都府・熊本県・岡山県支部

たのしみは毎日通う病院で

夫の世話をなつかしく思うとき

九十代女性

たのしみは「結婚しよう」と二度までも

いった夫をばかえりみるとき

七十代女性

たのしみは今日も無事を乗り越えて

ビール片手に母と向くとき

在宅介護者 五十代男性

たのしみはデイに送りてタクシー飛ばし

京寺(てら)の名庭(にわ)みて

癒されるとき

母の介護在宅介護者 五十代女性

たのしみは妻の手取りて胸はずみ

カラオケ仲間と笑顔に逢うとき

在宅介護者 七十代男性

たのしみは孫が習ってお茶をたて

いっぴくぐと声かけられるとき

在宅介護者 六十代女性

運営委員の声

本日の「その時全研が動いた」でも紹介しましたが6月に入り、「福井県全体として、認知症に取り組んでいる」という実感が出てきています。紹介以外にも、福井全研開催に向けて、福井県と福井県立図書館が認知症問題に取り組んで頂き、「認知症の人が利用できる図書館」について、講座を開いて頂きました。

この動きが、全研開催後も引き続き続けていけるようにしなければ、一過性の祭りになってしまいますので、この動きが維持できるようにみなさんと力を合わせて取り組んでいきたいと思いました。

認知症の人と家族の会の総会で全国各支部の皆様から「福井に行ってみよう。全研が楽しみ。」等激励のお言葉を頂きました。ありがとうございます。

皆様の期待に添えられるように、あと約5か月、全研開催に邁進したいと思います。